

速報 か、で、る 5号

2017年1月8日(日)

第16回全国障害児学級&学校学習交流集会 in 北海道

「文化バザール」・てんこ盛り講座の様子 のつづき



たのしい美術

わくわくどきどき楽しい美術に参加しています!20名程度が参加し前半は、美術の悩み、美術とはなにかについて学び、肢体不自由学校や高等養護学校での実践を生徒の作品を通して学習しました。後半は実際に作品作りを行い実践ですぐに取り入れられる内容でした



自分たちの歌づくり

気分はアーティストで!発声は「ま・め」をねばって、全力「あいうえお」と声を出すと体がポカポカです。生徒になってポップな金谷ワールドを楽しみました。思っていることを言葉にして、それをみんなでつないで歌づくりです。どんな歌になったのかは、青年交流会でご披露します♪滋賀県から、松山から8名参加でした♪

「すごくよかった。今まで作りたいと思っていたけどできなかった。転機になった。(ほしみ支援学校;椿原さん)」



冬・野外レク

情報 Web →





医療と教育

「医療と教育」は約30名の参加者迎えて行いました。医療的ケアの体制整備は一定整ってきましたが、保護者の負担や通学の保障などまだまだ課題は残っています。また、各都道府県によって非常勤看護師の時給も含め違いがあることがフロアを交えての話で分かりました。学校によっては、医療的ケアを対象とするお子さんの保護者同士のつながりの場を持っているところもあります。学校内で看護師—養護教諭—保護者のつながりを作るだけでなく、保護者同士をつなげていく必要性も感じました。

じっくり学んだ「基礎講座」



えがこう！豊かなインクルーシブ教育の未来



3人掛けのテーブルもびっしり埋まり、90名近い方々が熱心に荒川先生の話に聞き入っていました。「インクルーシブ教育」ということばを、単に「場の統合」「共に育つ教育」ととらえる向きもありますが、障害者の権利に関する条約では、障害のあるものが教育制度一般から排除されないことや個人に必要な「合理的配慮」が提供されているなどの中身が示されています。文科省もインクルーシブ教育を語りますが、荒川先生は普通教育も障害児教育も、条件的な厳しさが増してもその現状への認識が弱く、具体的な改革の提案もなされていないと指摘しています。インクルーシブ教育という概念への理解を深める論議が、進んでいきます。



【基礎講座】「発達」っておもしろい

全国のとりのくみを学んだ「旬の実践分科会」



50名の方が参加し、大変熱気あふれる分科会となりました。自閉症のお子さんは、コミュニケーションが苦手であり集団に入れないとよく言われますが、友だちや先生のことを気にしている様子から「本当は好きなのに広がりを持っていない」と捉え、それはなぜなのを我々は考える必要があると改めて感じさせられました。安心できる関係があるのか、過敏性から例えば同じ音楽を聴いていてもそこに不快感を感じてしまうことで周囲と共感関係にずれが生じてしまっているのではということが話題にあがりました。

自閉症・自閉的傾向の子どもたちの授業づくり



障害児学級での教育実践



性教育の実践



発達の遅れと授業づくり(最重度)



聴覚障害児の教育実践



病弱の子どもたちの教育実践



通常学級・通級指導教室での教育実践



発達の遅れと授業づくり(ことば獲得期)



発達障害児の教育実践



青年期の課題と授業づくり

50名の参加者が集いました。高等養護学校演劇部の実践レポートでは、演劇で表現することをおして、様々に傷ついてきた子どもたちが、どのように障害を受容していったのかなどの過程がつつられていて、とても興味深いものでした。演劇部の活動を通して子どもたちが主体的に物事に取り組めるようになったり、「次」を見通す力などがついたという話がありました。また、普通高校の生徒と一緒にワークショップなどを行うことなどで自信や度胸もついてきていること、そして卒業後も演劇を続けたいという生徒がいるなど、卒業後の生活にも大きな影響を与えていることが分かりました。



視覚障害児の教育実践



子どもの生活を考える